

住民MMの取組（案）



目的

- 公共交通の利便性が大きく向上する J R 宇都宮駅東側の L R T 沿線住民等に対し、交通情報を提供した上でのアンケートの実施や行動プランの作成等のプログラムへの参加など、双方向のコミュニケーションを通して、公共交通利用に係る行動変容を促すもの

対象エリア（右図参照）

- 約 1 万世帯程度（目標プログラム参加者数：2,000 世帯程度※）
新設バス路線沿線住民（約 3 万世帯）のうち、特に公共交通の利用が期待できる高齢者や高校生の属する世帯（約 1 万世帯程度）
※参加率 20% 程度を想定（過去実績）

MM実施手法（案）

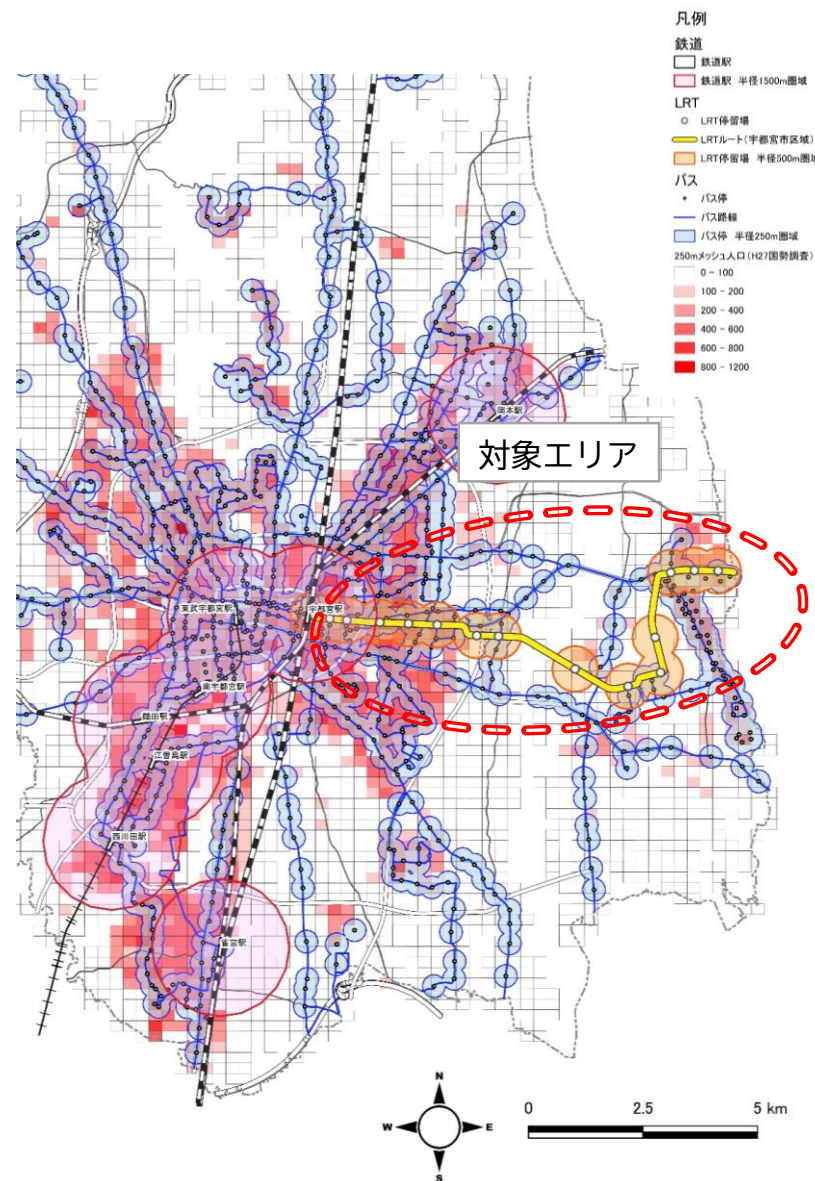
- 標準 T F P
公共交通を利用する可能性のある沿線住民の確実な利用を獲得するため、最も丁寧なプログラムである標準 T F P（4 弾構え）を想定

実施時期

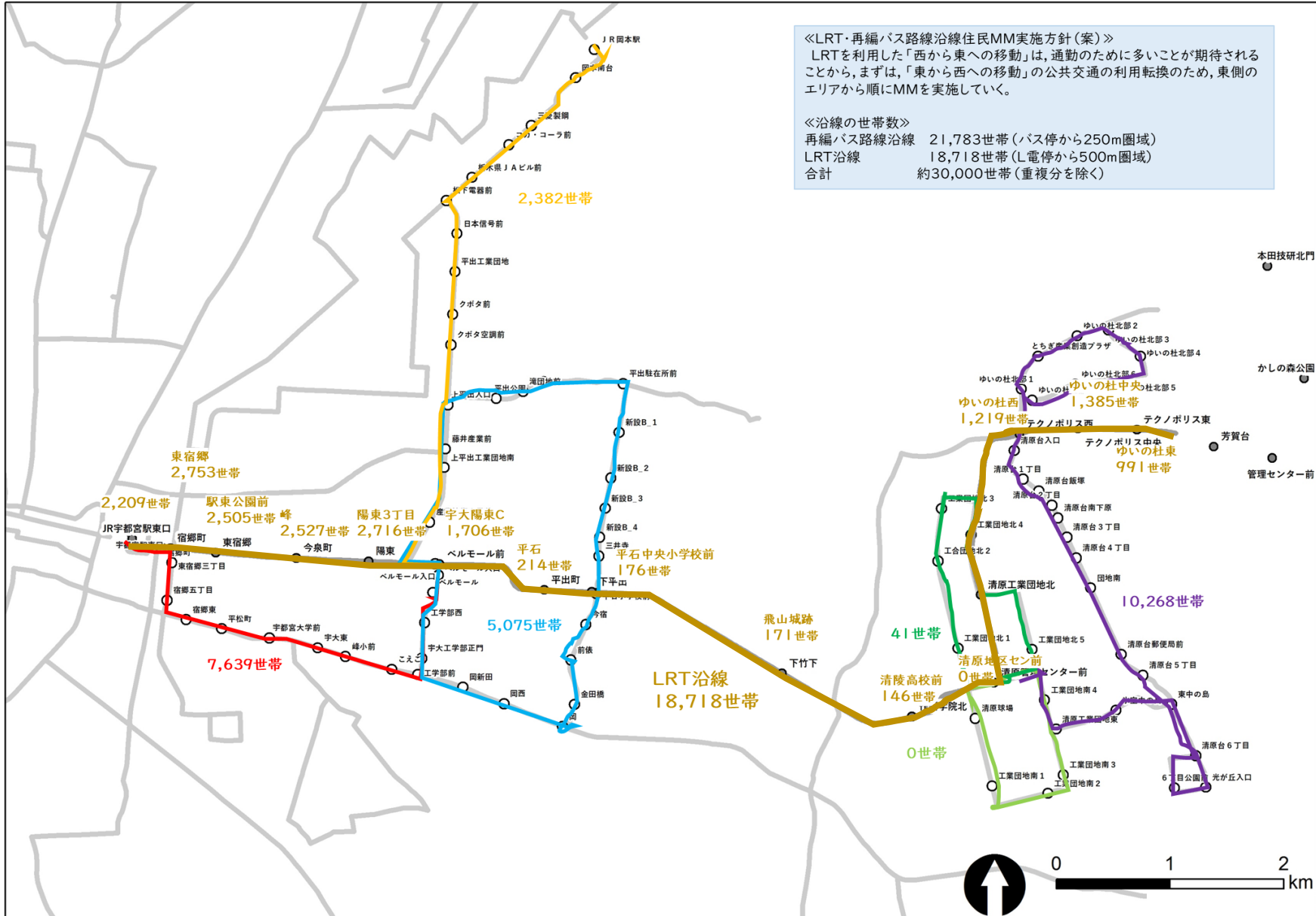
- 7 月頃から開始
L R T 開業の期待感が高まる中で、情報提供等を行いプログラムへの参加協力を求めることが、参加者数の増加や公共交通利用の定着につながると考えられるため、L R T やバスのダイヤなどの具体的な情報提供ができる 7 月頃から開始 ※本取組については、令和 5～7 年度の 3 年間で実施予定

懸念事項

- 沿線住民は既に L R T 等について認知しているため、訴求力のある資料づくりが必要
- 対象者数が膨大であり、資料の作成等に時間を要するため、迅速な対応が必要



【参考】沿線世帯数



《LRT・再編バス路線沿線住民MM実施方針(案)》
 LRTを利用した「西から東への移動」は、通勤のために多いことが期待されることから、まずは、「東から西への移動」の公共交通の利用転換のため、東側のエリアから順にMMを実施していく。

《沿線の世帯数》
 再編バス路線沿線 21,783世帯(バス停から250m圏域)
 LRT沿線 18,718世帯(L電停から500m圏域)
 合計 約30,000世帯(重複分を除く)

